社会産業理工学研究交流会へようこそ！

～聞く・見る・知る・そして共創へ～

平成 13 年に工学部で始まり毎年開催してきたエンジニアリングフェスティバルは、主催が大学院社会産業理工学研究部となったことに伴い、名称を社会産業理工学研究交流会と改め、毎年開催してまいりましたが、新型コロナウイルス感染の影響により、惜しくも令和 2 年度、3 年度と開催することができませんでした。

しかしながら、今年度は皆様のご協力のもと、十分な感染症対策を行ったうえで実施することを決定し、交流の場であるポスターセッションは対面形式を維持しつつ、講演は対面とオンライン、どちらの方法でも参加可能なハイブリッド方式を取り入れるという新しいプログラム構成といたしました。

本プログラムのうち、講演については、社会総合科学域・理工学域・生物資源産業学域の各系から選出された 11 名の若手研究者に多種多様な研究内容を発表いただきます。また、対面で実施するポスターセッションには、本学の関係センターや県立工業技術センター、大学支援機構等からの出展に加え、先端理工学教育研究プロジェクト採択者、大学院生や阿波銀行学術・文化振興財団研究助成採択者、さらに学外からは香川大学創造工学部の方々の発表と計 30 件の優れた出展が目白押しです。

さらに特別講演として、京都大学大学院工学研究科　物質エネルギー化学専攻教授の阿部竜先生をお迎えします。先生からは太陽光から直接貯蔵・輸送できるエネルギーである水素を製造する「人工光合成」の研究を講演いただけることになり、ゼロカーボン社会の実現に向けた最先端の研究をお聞きできる貴重な機会となりました。

講演やポスターを準備いただいた参加者の方々、さらには何かと障壁の多い中、企画から始まり、会場の準備を担っていただいた研究推進委員会委員、事務局など、多くの方々のご協力に深く感謝いたします。おかげで、当研究部と徳島大学の関係組織が一体となった、素晴らしい交流の場を催すことができ、心から感謝申し上げます。

研究交流会は多様な研究成果を社会に公開、理解を深めていただくとともに、学内外の研究交流、産官学金連携の推進を目的としています。この催しが、本学教職員、学生、大学院生はもとより、学内外連携機関や企業の方々にとって、お互いの取り組みを聞き、見て、知ることで、知の刺激や協働の可能性を感じられる「共創の場」となればと祈念します。

大学院社会産業理工学研究部長　**山　中　英　生**